令和5年（2023年）度
佐賀県立九州陶磁文化館 企画展

なんて書いてあると？
ーお皿の裏話ー

Themed Exhibition

What do the marks on the bottom mean?
ー Inside Story of Dishes ー

ごあいさつ

私たちが日常で手にするお皿には様々な文様が描かれています。お皿の表は埋めつくさんばかりに装飾したものもあれば、シンプルで大胆なデザインのものもあります。では、裏側はどうでしょうか。やきものの多くに高台（こうだい）と呼ばれる小さな台のようなものがついていますが、その高台の内側には文字やマークが書かれていることがあります。この文字やマークのことを「銘（めい）」と呼んでいます。

この銘にも様々な種類があります。中国の磁器に書かれたものをまねて、まるで中国で作られたかのように書いた文字や、おめでたい言葉を書いたもの、何だか分からない不思議なマークなど、バラエティーに富んでいます。これらの中には、長い間、色々な産地で使われた銘もあれば、特定の窯でのみ使われた銘もあります。

この展覧会は、銘をテーマとして江戸時代の佐賀のやきものを中心に、お手本となった中国のやきものなどにも触れながら分かりやすく紹介します。

普段はなかなか注目されることの少ないものですが、知れば知るほど奥深い銘の世界を、この機会に御堪能ください。

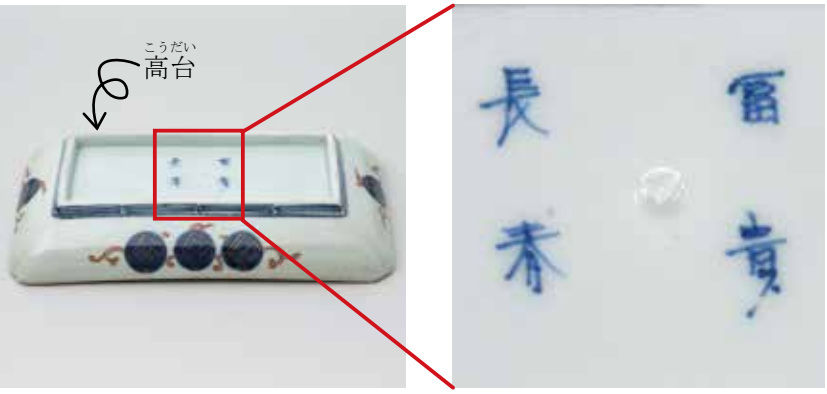
令和５年（2023 年） ９月 30 日

佐賀県立九州陶磁文化館
館長　鈴田　由紀夫

凡例

・本冊子は、佐賀県立九州陶磁文化館が令和５年（2023 年） ９月 30 日（土）から 11 月 26 日（日）まで開催する企画展「なんて書いてあると？―お皿の裏話―」の展示解説パンフレットです。
・本展覧会の出品作品はすべて佐賀県立九州陶磁文化館所蔵品です。
・本冊子に掲載した作品写真の番号は、巻末にある展示作品一覧と同じです。
・本冊子の執筆編集は宮木貴史（学芸課主査）が担当しました。

やきものの表



やきものの裏　やきものの銘

1　お皿の裏には何が書いてあるの？　What is written on the bottom?

○高台内の謎の文字 ―「銘（めい）」とは何か

Cryptographic letters on the bottom ― What does *Mei* mean?

江戸時代のやきものを裏返して見てみると、表の文様とは違って何も書かれていないことやシンプルに唐草文様や文字だけが書かれていることがあります。特に高台の内側には４文字や６文字の漢字や四角の枠に福の字が入ったものなど、様々な文字やマークが書かれています。これらのことを「銘」や「銘款（めいかん）」、「底裏銘（そこうらめい）」などと呼んでいます。ここでは「銘」と呼ぶことにしますが、この銘とはどのようなものなのでしょうか。

古くからやきものが焼かれた中国では、作られた年や使われる場所の名前などを皿の裏に限らず書き入れることがありました。15 ～ 16 世紀頃には、高台の中に製作年号やおめでたい言葉を書き入れることが多くなっていきます。最初は吉祥（きっしょう）を表すおめでたい文様として福や寿などの文字を高台内外に書いていました。そのうち、宮廷で使う磁器を焼いていた窯で「大明（だいみん）〇〇年製（ねんせい）」（〇〇には中国の年号が入る）という形式で文字を高台内に入れるようになります。明代末期になると、民間の窯では実際の製作年より前の時代の年号を入れた製品が流行しました。特に多い銘が「大明成化年製（だいみんせいかねんせい）」（成化（せいか）＝ 1465 ～ 1487 年の中国の年号）です。

1610 年代に日本の有田で磁器が作られるようになる前から、「大明成化年製」や「福」、「長命富貴（ちょうめいふき）」といった銘が書かれた中国の磁器が日本に輸入されていました。有田の磁器は中国の磁器をモデルとしていますので、作られ始めてまもなく中国の磁器にならって銘を書き入れるようになりました。

001　　長命富貴　※富と長寿を願う言葉
中国 16 世紀後半　冨永コレクション

002　　福
中国 1600 ～ 1630 年代　冨永コレクション

003　　大明成化年製
中国 1600 ～ 1640 年代
成化は 1464 ～ 1487 年の年号

004　　大明成化年製
日本 有田 1660 ～ 1670 年代
左をモデルに有田で作られたもの

005　　万福攸同
中国 16 世紀後半

左の「万福攸同（まんぷくしゅうどう）」は中国の磁器によく見られる銘です。言葉としては「たくさんの福が訪れますように」という意味でしょうか。右はそれを有田で写したものです。漢字が崩れていますが、元の文字を知っていることでかろうじて分かります。

006　　万福攸同
日本 有田 1690 ～ 1730 年代

○銘がある？ない？　*Mei* marks are not always necessary.

中国では明の時代の「宣徳」（1426 ～ 1435 年）という年号の頃から宮廷用の磁器に「大明宣徳年製」という年号銘を入れるようになります。中国では年号を時の皇帝名としますので、皇帝の治世を示すものとして書かれました。この形式は清の時代まで続いています。また、ドイツのマイセンではヨーロッパで初の磁器焼成に成功し、1710 年に王立磁器製作所が設立されます。マイセン窯の製品には剣を交差させたマークが入りますが、これはマイセンがあるザクセン侯国の紋章が由来です。磁器開発を命じたザクセン選帝侯アウグスト強王が納めさせた磁器にも双剣のマークや強王を示すモノグラムである AR のマークが入っています。

対して日本では、銘がないことが特徴となる磁器があります。一つは天皇が暮らす宮中（＝禁裏）に納める器（いわゆる禁裏御用品）、もう一つは将軍家への献上を主な目的として作られた鍋島焼です。どちらも日本における権力者が使用する器です。もちろん一般的な製品の中にも銘がないものはあり、むしろ商品としては銘があるものの方がより丁寧に作られていることがあります。

007　大明万暦年製
中国
万暦年間（1573 ～ 1620）

008　双剣マーク
ドイツ　マイセン窯
18 世紀中頃

010　禁裏御用品の裏面
有田　1750 ～ 1780 年代
百溪正明氏 寄贈

011　鍋島焼の裏面
鍋島藩窯　1690 ～ 1720 年代
鹿島鍋島家　寄贈

「銘」と呼ぶようになったのは？
Why and how do we call it *Mei*?

「銘」には、しるす、きざみつける、金属や石に刻んだ文字などの意味があり、器物にしるされた文字を銘と表現する事例は平安時代からあります。

江戸時代の資料として、「文字入り」や「印」などの表現で銘を書き入れることを指示した注文書などがあります。具体的に図示したものもあれば、文字だけで指示しているものもあります。高台内の文字を銘という言葉で表現した例として、明和 9 年（1772 年）の日付がある『誂物之雛形』（前川家史料、伊万里市教育委員会所蔵）があります。冒頭の注文書きに「冨貴長春之銘ハ無用」とあることから、「冨貴長春」の文字を「銘」と認識していたことが分かります。江戸時代においても「銘」と呼称されたことは間違いありませんが、どこまで一般的な表現だったかは分かりません。

明治時代に全国の日本の産物をまとめた『工芸志料』（明治 10 年）では、「京焼」や「楽焼」、「乾山焼」などの項目に印や落款といった表現がされています。高台内の文字を直接的に銘と表現した文章はありませんが、「有田窯」の項目には「外国ニ鬻ク毎器ニ三保ノ二字ヲ銘ス」とあります。昭和初期までの時代の中で鑑賞陶器という考え方が生まれ、『陶器講座』（昭和 10 ～ 14 年）や『日本古陶銘款集』（昭和 12 ～ 16 年）などの書籍で「銘」という表現を使用することが多くなってきました。

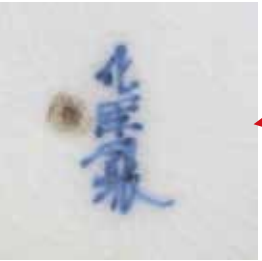
２　どんな種類があるの？　What types of *Mei* are there?

○変化に富んだ銘のいろいろ　There are various kinds of *Mei* and they are changed.

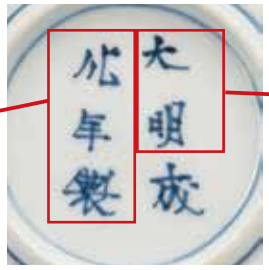
有田の磁器に限ってみても様々な銘を見ることができます。中国の磁器に書かれていた中国の国号、年号をまねして書いたもの、それを崩したり少し変えたりしたもの、福や寿などのおめでたい言葉を書いたもの、葉っぱや宝、花などのマークや解読不能な文字やマークなどなど。有田の磁器に見られる多種多様な銘を分類ごとに紹介します。

○中国の国名や年号を書いた銘　*Mei* means the Chinese names of nations and eras.

有田の磁器は中国の磁器を意識して作られたので、中国のやきものに書かれていた年号も写して書いています。そっくりそのまま写したものもあれば、一部を抜いたり文字が間違っていたり崩れていたりと、それだけでは意味が分からなくなっているものもあります。



020　化年製
２行６文字の「大明成化年製」銘から左の行だけをとったものです。



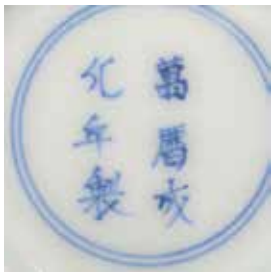
013 大明成化年製

012　太明
写す際に「大」から「太」になってしまいました。

021　青明
「大明」銘の「大」を「青」にアレンジした銘です。

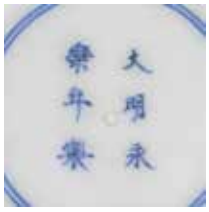
＋

015 大明万暦年製



025 万暦成化年製

中国の年号である「成化」と「万暦（ばんれき）」を組み合わせた有田創作の銘です。



016 大明永楽年製

018 大明年製

019 成化年製

022　宣明年製

023 宣明成化年製

024 大明化製

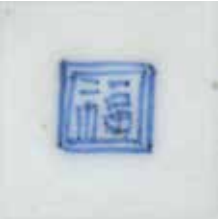
左の３点は中国の磁器にもある銘、右の３点は有田の磁器に見られる創作銘です。

026 大清乾隆年製　　028　清　　029　乾　　030　隆

中国 清の乾隆（けんりゅう - 1736 ～ 1795）年間を示す「大清乾隆年製」から１文字ずつ抜いた銘もあります。

○吉祥語銘（きっしょうご） Auspicious letters

中国の磁器にも有田の磁器にもおめでたい漢字や言葉がよく書かれています。ここで紹介している有田の銘もそのほんの一部で、とても紹介しきれないほど多種多様な吉祥語銘があります。


031　福

032　福（渦）

035　福（車輪）

036　福（米）

037　福（山渦）

福銘は一重や二重の角形枠に入ることが多いです。福だけでも書き方のバリエーションが豊富で、「田」を渦状に表現した渦福（うずふく）銘は良く知られています。そこから渦だけになったもの（037）や、車輪のように表現したもの（035）、「冨」が「米」のようになったもの（036）もあります。

038　寿

039　寿

おめでたい言葉として分かりやすい「寿」の字ですが、文様としては多いものの、銘には少ないです。

041　冨貴長春

042　冨貴長春

043　冨貴長春

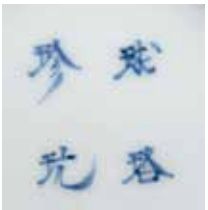
「冨貴長春」は富と健康長寿を願う言葉です。２行４文字の形式やコインの文字のように十字に配置した形式もあります。

044 永保長春

046　長命冨貴

051　碧玉珍玩

050　貴友珍玩


049　球珞珍玩

047 奇玉宝鼎之珍

おめでたい言葉の銘には「福寿」や「冨貴」「長命」など、多くの福や富、健康長寿を願う意味が多いです。器を称賛する言葉の銘には「珍」「玉」「佳器」などの漢字を使い、珍しいもの、立派なものであると表現されることが多いです。

日本人好み？有田磁器に多い銘
Japanese favourites?

吉祥語でも特に使用されたものが「福」字銘です。中でも草書体で「田」を渦状に表現した、いわゆる「渦福」と呼ばれる銘は、17 世紀後半に典型例が出現してから近代まで有田の磁器の代表的な銘として使用されました。また、「冨貴長春」や「奇玉宝鼎之珍（きぎょくほうていのちん）」（希少で珍しいものであるという意味）も中国の磁器より有田の磁器で見ることの方が多い銘です。

日本の磁器には中国志向が強く表れていますが、その中でも日本人の好みや趣向に合わせて、銘も選択されていたものと考えられます。

033　福（渦）

040　冨貴長春

048 奇玉宝鼎之珍

○不明文字銘　Undecipherable *Mei* marks

銘の中には漢字を組み合わせたようなものから文字なのかも分からない銘まで、現在でも何を書いたものなのか不明なものがあります。いったい何を書いたものなのか、銘の謎を解いてみてください。

053　禄ヵ

054　米貢ヵ

056　不明字（言）

057　析ヵ

058　嘉＋古寸

２文字以上の漢字を組み合わせたり、字画を増やしたり減らしたり、書体を変えたりなどのアレンジを加えて様々な銘が作られました。

059　印章形
（冨貴佳器ヵ）

062　印章形（春一）

061　青ヵ

もはや文字には見えませんが、おそらく冨貴佳器や冨貴長春などの４文字が印章形に変化したものと考えられます。

064　不明飾文字

原形不明の飾文字ですが、もととなったものらしき銘が中国の磁器にあります。

065　呉祥瑞五良太甫造

この銘は読むことはできますが、銘の意味するところは未だよく分かっていません。元々は日本に輸入された上質な中国磁器に見られるもので、呉や祥瑞を人名とみるか地名とみるかなど、その意味について議論が交わされてきました。有田の例は 18 世紀後半頃になってこれを写したものです。

○マーク銘　Illustrated *Mei* marks

高台の内側には、文字だけではなくマークのようなものが入っていることがあります。皿の表や高台の外側の文様とは別に、記号のように入れられたものをマーク銘として紹介します。

066　マーク（花）

067　マーク（菊花）

068　マーク（桃）

070　マーク（葉）

参考　マーク（葉）
中国　17 世紀　冨永コレクション

輸出向け製品に見られます。

マーク銘も中国磁器にあるものがほとんどです。清朝磁器の影響で 18 世紀以降に多くなります。

072　マーク（鷺）

水辺に佇む一羽の鷺を高台内に表したマークです。軟質施釉陶器（素焼き程度の素地に色絵を施したもの）と呼ばれる特殊な製品に入れられています。

073　マーク（宝）

074　マーク（虫）

075　マーク（虫）

073 は中国の磁器にもある「筆」「銀錠（銀貨の一種）」「如意」を組合せた宝のマークです。これが崩れてくると 074 のような虫のようになります。075 はより省略化されたものです。

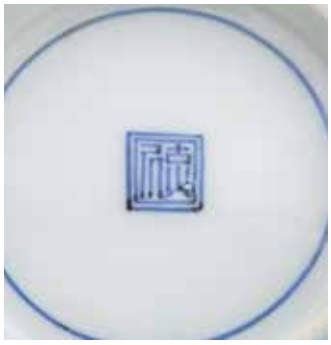
○南川原地区の窯にみられる銘 *Mei* marks used in Arita Nangawara area

中国の磁器を手本としてきた有田の磁器ですが、オリジナルの銘も多々あります。こうしたオリジナルの銘は特定の窯を示す場合もあります。ここでは、有田の南川原地区にある柿右衛門窯跡や南川原窯の辻窯跡などで見られる銘を紹介します。

077　　金
二重の角形枠に金の篆書体と思われる文字が入った銘です。

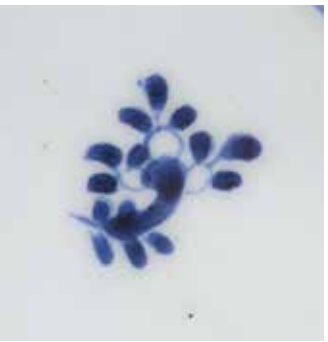
078　　宣嘉年製
中国年号の「宣徳」と「嘉靖」を組み合わせた銘です。

079　　嘉
「嘉靖」の「嘉」を二重の角形枠に入れたと考えられる銘です。



二重の角形枠に不思議な文字が入っています。字体から「古人」や「古に倣う」や「徳」などと言われてきました。偏の部分は他の銘でも見られますが、旁は「古」と「寸」を上下に組み合わせたように見えます。

080　　古寸



081　　丁子花

貴重な香料で宝文としても描かれる丁子（＝クローブ）を花の文様風に表現したものです。色絵のものなど様々なスタイルがありますが、081 のような例は南川原窯の辻窯跡でのみ出土しています。伝世品としては海外に残されていることが多く、輸出向け製品に入れられた銘とも推測されます。

謎の「松」銘―松香渓（松ヶ谷）焼
Mystery of `Pine` letter

篆書体とは漢字の書体の一つで、現在では印鑑の書体として使われることがありますが、銘にもこの篆書体で書かれたものがあります。その一つが「松」の篆書体銘です。この銘は佐賀藩の支藩である小城藩の領地で焼かれていたとされる「松香渓（松ヶ谷）焼」の銘だとされてきました。しかし、松銘のうち丸に松を書いたものは有田の南川原にある樋口窯跡で陶片が確認されました。二重の角形枠に松を書いた銘は有田の窯跡では見つかっておらず、小城陣屋町遺跡から出土した陶片にあり、松香渓焼の可能性が高いものです。今後の研究の進展が期待されます。

083　　角松
松香渓焼の可能性がある二重の角形枠に松の字を書いた銘の事例です。この銘の伝世品（昔から伝えられたもの）は数が少ないです。

084　　丸松

085「染付花唐草文輪花小皿」銘は渦福
084 は円形の枠に松の字を書いた銘の事例です。085 は 083 とよく似たデザインの有田の製品です。関係があるかもしれません。

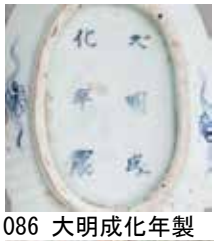
3 時代によって違うの？ Does it vary depending on the times?

○江戸時代から近現代までの銘の変化 Changes of *Mei* from Edo period to the modern period

多種多様な銘がありますが、磁器が作られ始めた時から現在まで様々に変化してきました。時代の流れの中で出現し、その後消えていく銘もあれば、再び使用される銘もあり、あるいはずっと使用され続けた銘もあります。

○中国の国名や年号を書いた銘の変化 Changes of *Mei* of Chinese dynasty and era names

中国の国名や年号を書いた銘は、有田の磁器に銘を書くようになった頃からあります。中国明王朝つまり明国に由来する「大明成化年製」は江戸時代の初期から近代まで絶えず使用され続けました。清国に由来する銘は、江戸時代中頃から使用されるようになります。


086 大明成化年製

093 太明

094 大明成

17 世紀前半

087 大明成化年製

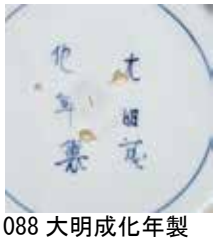
095 化年製

096 宣德年製

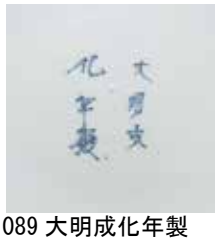
097 大明嘉靖年製

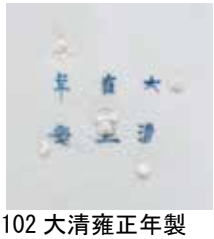
098 宣明年製

17 世紀後半

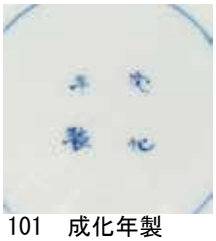

088 大明成化年製

099 大明万暦年製


089 大明成化年製


102 大清雍正年製

100 大明年製


101 成化年製

18 世紀前半

104 太明年製

103 成化年製

18 世紀後半

090 太明成化年製

105 宣德年製

091 太明成化年製

092 大明成化年製

106 大清乾隆

107 太明年製

19 世紀前半

108 大明年製

近現代

○福字銘の変化　Changes of *Fuku* letter *Mei* marks

福字銘のバリエーションの豊かさは時代差を示すこともあります。大まかには福の篆書体銘から始まり、渦福が大流行し、それが崩れていくのとは別に米福や×福などが出現してきます。

109　福　柴澤コレクション

110　福　柴澤コレクション

111　福

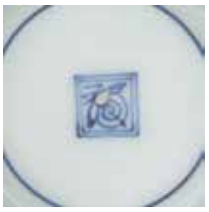
有田焼が始まる江戸時代初期から福字銘も使われました。

17 世紀前半

112　福

113 福（草書）　柴田夫妻コレクション

114　福（渦）　西浦隆夫氏寄贈



115　福（渦）

形が整えられた渦福銘の典型的なものが作られました。

17 世紀後半

116　福（渦）　髙取家コレクション

117　福（渦）　白雨コレクション

118　福（渦）

渦福が大流行します。典型例より間延びしたり崩れたりしたものもあります。

18 世紀前半

119　福（山渦）

120 福（米）　髙取家コレクション

渦福からついに渦だけになってしまいました。

121　福（×）

122　福（渦）　柴澤コレクション

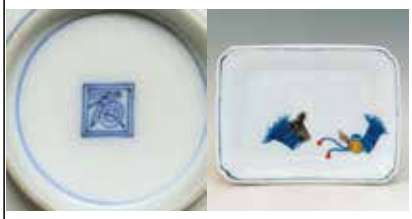
「畐」が「米」のようになった米福や×が特徴的な×福といった違う形の福字銘が現れます。

18 世紀後半

123　福（×）　柴田夫妻コレクション

124　福（草書）　柴田夫妻コレクション

19 世紀前半



125　福（渦）　百溪正明氏寄贈

126　福（渦）　斉藤功氏寄贈

近現代の製品には江戸時代のリバイバル製品もよく作られましたが、それらには典型例に近い渦福が使用されました。

近現代

○時代を示す年号銘 *Mei* letters express real eras.

中国の年号が書かれることの多い日本の磁器ですが、日本の年号を記したものも残されています。製作年や寺社への寄進の年などが記された銘のことを「紀年銘（きねんめい）」、紀年銘が書かれた資料を「紀年銘資料」と呼びます。

128　承応弐歳
承応（じょうおう）２＝ 1653 年

129　延宝年製
延宝（えんぽう）＝ 1673 ～ 1681 年
中国銘に倣った形式の初の和年号銘

130　延宝年製

131　元禄年製
元禄（げんろく）＝ 1688 ～ 1704 年

133　享保壬寅
享保（きょうほう）＝ 1716 ～ 1736 年
壬寅＝干支の一つ
享保７年（1722 年）

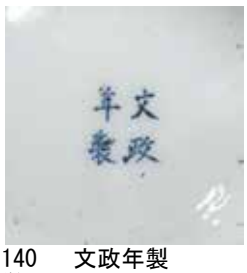
134　寛延年製
寛延（かんえん）＝ 1748 ～ 1751 年

135　天明年製
天明（てんめい）＝ 1781 ～ 1789 年
二重角形枠を伴う例

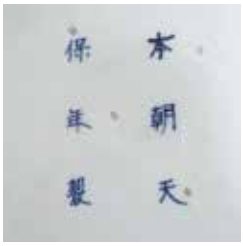
136　寛政年製
寛政（かんせい）＝ 1789 ～ 1801 年

138　文化年製
文化（ぶんか）＝ 1804 ～ 1818 年
印章風にした篆書体銘

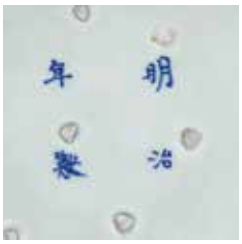
139　文化年製
＋今泉平兵衛（制作者名）



140　文政年製
文政（ぶんせい）＝ 1818 ～ 1831 年



142　本朝天保年製
天保（てんぽう）＝ 1831 ～ 1845 年



143　明治年製
明治（めいじ）＝ 1868 ～ 1912 年

※年号銘の中には後世に古い年号を入れたものもあるため注意が必要です。

戦時中の統制番号
Numbering system of wartime

第二次世界大戦中の政府による経済政策として陶磁器産業は日本陶磁器工業組合連合会による統制を受けます。加盟している有田の組合では「有○」（○には番号が入る）、その他佐賀県内の組合では「肥○」を製品に表示することになりました。各組合で工場に割り振られた番号が書かれたことから、これらの銘を「統制番号（とうせいばんごう）」と呼んでいます。残念ながら有田では戦時中の資料が失われているため、すべての番号と窯元とを照合できるわけではありませんが、残された製品などから特定されている番号もあります。戦時下における厳しい経済統制の時代を物語る統制番号ですが、産地や年代を明確に示す貴重な指標でもあります。

144　有３

145　有 11

146　肥５

4 銘のこともっと知りたい！ Want to know more about *Mei*.

○銘の書き方 How to inscribe or write *Mei* letters

銘の基本的な書き方は高台内の中央に手書きされたものです。江戸時代の磁器の銘の多くがそのようにして書かれています。しかし、銘の書き方はそれ以外にもあります。

・高台中央に書かない銘の例

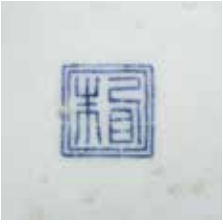
147　清

148　乾

19 世紀になると高台の中央ではなく外した位置や高台際に近い位置に「清」や「乾」などの銘が書かれていることがあります。139 の「今泉平兵衛」も高台際に近い位置です。絵画における落款を意識したものでしょうか。

また、絵付の技法として型紙摺（かたがみずり -1670 年代から）やゴム印（染付は昭和から）などの印刷技法が出てくると、銘の書き方にも取り入れられます。素地に直接刻印する技法は江戸時代の場合、陶器の銘に見られます。

・手書き以外の銘の例



149　型紙摺

150　型紙摺

151　ゴム印

152　ゴム印

153　刻印

○銘からみる産地間の関係 Producing areas and influence

様々な銘が見られる磁器（素地が白くて硬いやきもの）に対して、肥前地域で作られた陶器（有色の粘土で成形し、釉薬を掛けて焼成したもの）にはほぼ銘がありません。ただし、京都のやきものの影響を受けた「京焼風陶器」と呼ばれるものには、京焼の製作者銘風の刻印が施されています。京都の仁清や楽焼などに見られる刻印銘の影響で、京焼風陶器には「清水」や「森」、「宝」などの刻印銘が入ります。

参考　仁清　東京国立博物館所蔵
出典：ColBase（https://colbase.nich.go.jp）

156　楽
京都　楽窯　18 世紀

157　清水
肥前 17 世紀後半

刻印を使う陶器と使わない磁器 *Mei* marks for stonewares and porcelains

手書きの銘が多い磁器に対して、陶器の銘には刻印によるものが多くあります。銘に限らず江戸時代の磁器の装飾には、型による陽刻文様や、ヘラ彫り、線描きといった陰刻文様はあるものの、刻印による装飾はごく僅かしかありません。肥前の陶器では陰刻した文様に白土などを充填する象嵌技法という装飾の中で刻印がしばしば用いられてきました。

中国では磁器生産の中心地である景徳鎮窯の染付磁器には刻印銘がありませんが、白磁などの単色釉の産地や陶器の急須で有名な宜興窯では刻印銘が見られます。日本市場における磁器の需要は主に中国の染付磁器にあり、中国景徳鎮の磁器を有田が目指したことが磁器に刻印銘がない理由だと考えられます。

○銘の機能：産地を示す Function of the *Mei*: Indicate the production area

京焼では早くから製作者を示すものとして銘が入れられましたが、18 世紀以降に有田周辺以外でも磁器を作るようになると、生産地を主張するように産地名を入れた銘が出てきます。尾張の瀬戸焼では有田焼（伊万里焼）と区別するため藩からの指示で入れた銘もあります。

19 世紀になると「蔵春亭三保造」や「肥碟山信甫造」などの屋号を記してブランドを表した銘が書かれるようになり、近代以降は製品に各窯元の銘が入ることが一般化していきます。

158　筒江
肥前 筒江窯

160　亀山製
肥前 亀山窯

161　崎陽住亀山製
肥前 亀山窯

162　天草
肥後 高浜窯

163　朝
筑後 朝妻窯

164　スエ
筑前 須恵窯

166 蔵春亭三保造
有田 久富

左は 19 世紀半ば、有田焼の海外輸出を再開させた久富与次兵衛が第 10 代佐賀藩主鍋島直正から賜った屋号「蔵春亭」を記した銘です。有田におけるブランド銘の走りとなりました。

170　滿宝山枝栄造＋肥碟山信甫造
有田 田代

久富家に続き田代紋左衛門が使用したのが「肥碟山信甫」銘です。左は三川内の商社の染付銘の上から色絵で銘を書いた珍しいものです。三川内に素地を発注していた証左となります。

169 年木庵喜三造
有田 深海

172　蘭マーク
有田 香蘭社

173　富士流水マーク＋深川製
有田 深川製磁

174　柿右衛門作
有田 柿右衛門窯

175　今右衛門
有田 今右衛門窯

176　年木庵佩山作
初代松本佩山

初代松本佩山は、有田で初めて帝展に入選し、戦時中も有田で唯一芸術品生産を許可された芸術保存者に指定されました。深海竹治の娘と結婚したため、深海家が用いた「年木庵」を継いで自身の作品に書き入れました。分業体制が常であった有田でも佩山以降、芸術的な作品づくりを目指す「陶芸家」が活躍し始め、作者名を入れたものが見られるようになります。

177　有田焼
有田

左は昭和前期の染付大皿の銘です。江戸時代には伊万里焼と総称されてきましたが、この頃にはついに産地の名前を冠した「有田焼」が銘としても使われるようになりました。

展示作品一覧

展示番号	銘	資料名	時代	生産地	点数	備考	収蔵番号
001	長命富貴	染付兎文輪花皿	16 世紀後半	中国 景德鎮窯	1	当館所蔵 冨永コレクション	12919
002	福	染付雲鶴文皿	1600 ～ 1630 年代	中国 景德鎮窯	1	当館所蔵 冨永コレクション	13024
003	大明成化年製	染付仙人文鉢	1600 ～ 1640 年代	中国 景德鎮窯	1	当館所蔵	00668
004	太明成化年製	染付仙人文鉢	1660 ～ 1670 年代	肥前 有田	1	当館所蔵	00667
005	万福攸同	染付果樹文小皿	16 世紀後半	中国 景德鎮窯	2	当館所蔵 冨永コレクション	12946
006	万福攸同	色絵花唐草文鉢	1690 ～ 1730 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴田祐子氏 寄贈	08079
007	大明万暦年製	染付魚藻文大鉢	万暦年間（1573 ～ 1620）	中国 景德鎮窯	1	当館所蔵 髙取家コレクション	15128
008	窯マーク	色絵花盆文八角皿	18 世紀中葉（1740 年代前後）	ドイツ マイセン窯	2	当館所蔵	02005
009	窯マーク	紅彩騎馬像文輪花皿	1859 ～ 1875 年	オランダ マーストリヒト ペトゥルス・レグゥー窯	2	当館所蔵 髙取家コレクション	07347
010	銘なし	染付菊紋竹垣藤文小皿	1750 ～ 1780 年代	肥前 有田 辻窯	1	当館所蔵 百溪正明氏 寄贈	06774
011	銘なし	色絵桜花籠文皿	1690 ～ 1720 年代	肥前 鍋島藩窯	1	当館所蔵 鹿島鍋島家 寄贈	00190
012	太明	染付竹雀文皿	1640 年代頃	肥前 有田	1	当館所蔵 柴澤コレクション	14178
013	大明成化年製	染付大明嘉靖年製銘文手塩皿	1650 ～ 1660 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴澤コレクション	14205
014	大明嘉靖年製	色絵唐花唐草文小皿	1690 ～ 1710 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 今泉吉郎・吉博コレクション	14132
015	大明万暦年製	色絵赤玉雲龍文鉢	1700 ～ 1730 年代	肥前 有田	1	当館所蔵	00606
016	大明永楽年製	色絵欄干牡丹文鉢	1690 ～ 1710 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	02981
017	宣德年製	色絵捻花文輪花鉢	1770 ～ 1790 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 白雨コレクション	06125
018	大明年製	染付仙芝祝寿文皿	1780 ～ 1820 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	05132
019	成化年製	染付松竹梅花文輪花小皿	1740 ～ 1760 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴澤コレクション	14408
020	化年製	染付変形字牡丹唐草文小皿	1660 ～ 1670 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	05776
021	青明	染付山水文盃台	1660 ～ 1670 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 柴澤コレクション	14253
022	宣明年製	染付岩樹木文小碗	1660 ～ 1680 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 柴澤コレクション	14278
023	宣明成化年製	染付丸水車桜花流水文小皿	1680 ～ 1700 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	03882
024	大明化製	染付鹿文輪花小皿	1680 ～ 1720 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴澤コレクション	14308
025	万暦成化年製	染付桜松梅八卦文八角小皿	1730 ～ 1750 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴澤コレクション	14384
026	大清乾隆年製	色絵鳳凰花唐草文小碗	1780 ～ 1810 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	05510
027	乾隆年製	色絵海棠文蓋付碗	1800 ～ 1860 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 白雨コレクション	06142
028	清	色絵龍文蓋付碗	1780 ～ 1810 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	04211
029	乾	染付波一角獣文手塩皿	1820 ～ 1860 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 髙取家コレクション	06948
030	隆	染付赤壁賦文輪花皿	1770 ～ 1790 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	02846
031	福	色絵山水文四方小皿	1640 ～ 1650 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 柴澤コレクション	14185
032	福（渦）	染付龍唐草文長皿	1680 ～ 1690 年代	肥前 有田 南川原山	2	当館所蔵	00054
033	福（渦）	色絵松竹梅文鮑形皿	1690 ～ 1730 年代	肥前 有田	1	当館所蔵	00428
034	福（車輪）	染付桜花流水唐草文輪花皿	1670 ～ 1690 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 柴田祐子氏 寄贈	08032
035	福（車輪）	染付花唐草文長皿	1700 ～ 1740 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴澤コレクション	14352
036	福（米）	染付陽刻虎唐子文輪花皿	1750 ～ 1780 年代	肥前 有田 窯ノ辻窯	1	当館所蔵 中島政利氏 寄贈	00331
037	福（山渦）	色絵仙人文輪花小皿	1770 ～ 1790 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 髙取家コレクション	14762
038	寿	染付岩鳥芙蓉手文小皿	1670 ～ 1690 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴田祐子氏 寄贈	08034
039	寿	色絵牡丹鳳凰文鉢	1710 ～ 1740 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 白雨コレクション	05968
040	冨貴長春	色絵牡丹文長皿	1750 ～ 1780 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴澤コレクション	14441
041	冨貴長春	染付麒麟鳳凰唐草文火入	1740 ～ 1760 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 柴澤コレクション	14410
042	冨貴長春	色絵魚波水草海老蟹文皿	1700 ～ 1730 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	03384
043	冨貴長春	染付麒麟人物文輪花皿	1770 ～ 1790 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴澤コレクション	14471
044	永保長春	色絵唐人団龍瓔珞文角鉢	1690 ～ 1730 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	02944
045	永楽宝製	色絵瓢箪桜万年青文蓋付碗	1780 ～ 1820 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	05151
046	長命富貴	色絵赤玉紗綾形文小皿	1700 ～ 1730 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 百溪正明氏 寄贈	07439
047	奇玉宝鼎之珍	染付鴛鴦花唐草文長皿	1700 ～ 1740 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴澤コレクション	14351
048	奇玉宝鼎之珍	染付牡丹唐草文輪花皿	1740 ～ 1770 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 髙取家コレクション	14753
049	球珞珍玩	染付梅樹文隅入角皿	1710 ～ 1740 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 富樫次男氏 寄贈	02017
050	貴友珍玩	染付菊唐草文輪花小鉢	1690 ～ 1740 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	03042
051	碧玉珍玩	色絵桃文小鉢	1690 ～ 1730 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴澤コレクション	14336
052	竹友珍玩	染付唐子文皿	1760 ～ 1790 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	05418
053	禄ヵ	染付唐人文輪花皿	1650 ～ 1660 年代	肥前 有田	1	当館所蔵	00305
054	米貢ヵ	色絵草花文輪花皿	1655 ～ 1660 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 柴澤コレクション	14212
055	不明字（扈）	染付鹿松文皿	1660 ～ 1670 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 今泉吉郎・吉博コレクション	14102
056	不明字（言）	染付鹿紅葉文皿	1660 ～ 1670 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	00973
057	析ヵ	染付鶉文輪花皿	1660 ～ 1680 年代	肥前 有田 南川原山	2	当館所蔵 白雨コレクション	06045
058	嘉＋古寸	染付花卉牡丹唐草文輪花皿	1680 ～ 1690 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	04357
059	印章形（冨貴佳器ヵ）	色絵寿字宝丸文皿	1710 ～ 1740 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	04726
060	印章形（山春）	染付童子文皿	1750 ～ 1780 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 柴澤コレクション	14437
061	青ヵ	染付桐亀甲繋文輪花小皿	1760 ～ 1790 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴澤コレクション	14464
062	印章形（春一）	染付鷺花文八角小皿	1770 ～ 1790 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴澤コレクション	14473
063	印章形	染付唐花菊唐草文蓋付碗	1780 ～ 1820 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴田祐子氏 寄贈	08026
064	不明飾文字	色絵雲龍文碗	1780 ～ 1820 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 白雨コレクション	06126
065	呉祥瑞五良太甫造	染付花文輪花大角皿	1800 ～ 1840 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 柴澤コレクション	14524
066	マーク（花）	色絵花樹文小碗・小皿	1690 ～ 1720 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴澤コレクション	14320
067	マーク（菊花）	色絵梅桜松文蓋付碗	1690 ～ 1730 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 髙取家コレクション	14736
068	マーク（桃）	色絵寿字菊花文菊花形小皿	1700 ～ 1740 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	03438
069	マーク（花卉）	色絵花卉文皿	1700 ～ 1730 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 髙取家コレクション	14741
070	マーク（葉）	色絵梅竹山水文皿	1700 ～ 1730 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 白雨コレクション	06061
071	マーク（葉）	染付楼閣山水文小鉢	1720 ～ 1750 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 髙取家コレクション	14748
072	マーク（鷺）	色絵唐花雲龍文長皿	1710 ～ 1740 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 柴田祐子氏 寄贈	08086
073	マーク（宝）	染付仙芝祝寿文皿	1770 ～ 1790 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴澤コレクション	14469
074	マーク（虫）	染付仙祝文皿	1770 ～ 1790 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 爲近美榮氏 寄贈	12522
075	マーク（虫）	染付樹下人物文輪花小皿	1750 ～ 1780 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴澤コレクション	14446
076	マーク（盤長）	染付竹花文輪花手塩皿	1820 ～ 1860 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	04813
077	金	染付若松文皿	1670 ～ 1690 年代	肥前 有田 南川原山	1	当館所蔵	00369
078	宣嘉年製	染付鮎文輪花皿	1680 ～ 1700 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	03984
079	嘉	色絵五弁花竹梅文八角小皿	1680 ～ 1690 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	04479
080	古寸	染付梅唐草文菊花形皿	1670 ～ 1690 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 今泉吉郎・吉博コレクション	14125
081	丁子花	色絵菊梅牡丹草花文十角鉢	1690 ～ 1710 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	04272
082	金、宣嘉年製、古寸、丁子花	南川原窯の辻窯跡出土陶片		肥前 有田 南川原窯の辻窯	4	当館所蔵	—
083	角松	染付唐草文輪花鉢	1720 ～ 1740 年代	肥前	2	当館所蔵	00601
084	丸松	染付陽刻唐人文輪花鉢	1750 ～ 1770 年代	肥前 有田 樋口窯	2	当館所蔵	00453
085	福（渦）	染付花唐草文輪花小皿	1690 ～ 1730 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 髙取家コレクション	14729
086	大明成化年製	染付菊文菊花重形小皿	1640 ～ 1650 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 廣井孝夫氏 寄贈	15281
087	大明成化年製	染付山水人物七宝文輪花鉢	1670 ～ 1680 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴澤コレクション	14277
088	大明成化年製	染付唐花唐草文輪花皿	1700 ～ 1740 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴澤コレクション	14348
089	大明成化年製	色絵松竹梅文鉢	1730 ～ 1770 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 柴田祐子氏 寄贈	08005
090	太明成化年製	色絵船人物文輪花皿	1790 ～ 1840 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 髙取家コレクション	14773
091	大明成化年製	染付菖蒲草花文八角鉢	明治	肥前 有田	1	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	06297
092	大明成化年製	色絵花菱菊花文蓋付碗	明治～大正	肥前 有田	1	当館所蔵 百溪正明氏 寄贈	06753
093	太明	染付亀甲菊花文菱形皿	1630 ～ 1640 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 柴澤コレクション	14170
094	大明成	染付宝文六角小皿	1630 ～ 1640 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴澤コレクション	14173
095	化年製	染付盆栽文輪花皿	1660 ～ 1670 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	00966
096	宣德年製	染付撫子梅草花文皿	1655 ～ 1670 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	05774
097	大明嘉靖年製	染付花卉唐草文輪花皿	1660 ～ 1670 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 平方良輔氏 寄贈	03520
098	宣明年製	色絵菫草花文輪花鉢	1680 ～ 1700 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴田祐子氏 寄贈	07958
099	大明万暦年製	色絵雲草花四方襷文鉢	1690 ～ 1730 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 今泉吉郎・吉博コレクション	14137
100	大明年製	染付吹墨紅葉雪輪文皿	1700 ～ 1740 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 今泉吉郎・吉博コレクション	14139
101	成化年製	染付団龍花唐草文小皿	1730 ～ 1750 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴澤コレクション	14383
102	大清雍正年製	染付樹下人物文輪花皿	1740 ～ 1770 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 柴澤コレクション	14411

展示番号	銘	資料名	時代	生産地	点数	備考	収蔵番号
103	成化年製	染付人物文輪花皿	1750 ～ 1780 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴澤コレクション	14439
104	太明年製	染付柳鷺流水文皿	1780 ～ 1790 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 爲近美榮氏 寄贈	08423
105	宣德年製	染付宝花弁文八角皿	1790 ～ 1830 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 柴田祐子氏 寄贈	08136
106	大清乾隆	色絵鶴仙人文蓋付碗	1790 ～ 1830 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴田祐子氏 寄贈	08022
107	太明年製	染付騎馬人物丸文八角小皿	1820 ～ 1840 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 西　幾多氏 寄贈	05633
108	太明年製	色絵波兎文蓋付鉢	明治	肥前 有田	1	当館所蔵 西　幾多氏 寄贈	05647
109	福	染付菊文菱形皿	1630 ～ 1640 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 柴澤コレクション	14171
110	福	色絵竹梅柴垣文菱形小皿	1650 ～ 1660 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 柴澤コレクション	14202
111	福	染付柳蛇籠文皿	1640 ～ 1650 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 柴澤コレクション	14180
112	福	染付山水人物文皿	1670 ～ 1680 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 柴澤コレクション	14274
113	福（草書）	染付折枝桃文輪花皿	1660 ～ 1680 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	01094
114	福（渦）	染付蟹藻文輪花小皿	1670 ～ 1680 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 西浦隆夫氏 寄贈	07394
115	福（渦）	染付花弁文八角鉢	1670 ～ 1690 年代	肥前 有田 南川原山	2	当館所蔵 髙取家コレクション	14718
116	福（渦）	色絵草花文小鉢	1720 ～ 1750 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 髙取家コレクション	06879
117	福（渦）	色絵松桜柴垣文小碗	1700 ～ 1730 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 白雨コレクション	06073
118	福（渦）	型紙染付唐草菱形地文長皿	1700 ～ 1730 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 池田忠一氏 寄贈	00352
119	福（山渦）	色絵牡丹文輪花小皿	1760 ～ 1780 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴田祐子氏 寄贈	08029
120	福（米）	染付花弁文輪花小皿	1740 ～ 1770 年代	肥前 有田 南川原山	2	当館所蔵 髙取家コレクション	14751
121	福（×）	染付鶴文輪花小皿	1770 ～ 1790 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	02923
122	福（渦）	色絵青磁牡丹桃栗文鉢	1750 ～ 1770 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴澤コレクション	14434
123	福（×）	染付山水花唐草文蓋付碗	1800 ～ 1840 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	05158
124	福（草書）	色絵捻花花弁文輪花皿	1810 ～ 1860 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	04803
125	福（渦）	色絵柴束瓢箪文角形小皿	明治～大正	肥前 有田	1	当館所蔵 百溪正明氏 寄贈	06618
126	福（渦）	色絵鳳凰文八角皿	明治後期～昭和前期	肥前 有田	1	当館所蔵 斉藤　功氏 寄贈	03511
127	福（渦）	色絵鳳凰文八角小皿	1670 ～ 1690 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 今泉吉郎・吉博コレクション	14124
128	承応弐歳	染付栗文変形皿	「承応弐歳」銘（1653）	肥前 有田	1	当館所蔵	06699
129	延宝年製	色絵波丸文八角小皿	延宝年間（1673 ～ 1681）	肥前 有田	2	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	03727
130	延宝年製	染付蜘蛛巣文八角皿	延宝年間（1673 ～ 1681）	肥前 有田	1	当館所蔵	00858
131	元禄年製	染付桜柴束文輪花皿	元禄年間（1688 ～ 1704）	肥前 有田	1	当館所蔵	00878
132	元禄年製	染付芙蓉手水鳥文皿	1690 ～ 1750 年代	肥前 有田	1	当館所蔵	00049
133	享保壬寅	色絵花唐草丸文小鉢	1722 年	肥前 有田	2	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	04953
134	寛延年製	色絵薊蝶雨降文嗽碗	寛延年間（1748 ～ 1751）	肥前 有田	1	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	06314
135	天明年製	染付山水市松文十二角皿	天明年間（1781 ～ 1789）	肥前 有田	1	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	02842
136	寛政年製	染付赤壁賦文輪花形小鉢	寛政年間（1789 ～ 1801）	肥前 有田	2	当館所蔵 小橋一朗氏 寄贈	00770
137	寛政年製	染付牛山水文六角鉢	寛政年間（1789 ～ 1801）	肥前 有田	1	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	06587
138	文化年製	染付百合文八角蓋物	文化年間（1804 ～ 1818）	肥前 有田	1	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	06601
139	文化年製＋今泉平兵衛	色絵松竹梅鶴文輪花大皿	文化年間（1804 ～ 1818）	肥前 有田	1	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	06326
140	文政年製	染付竹雀文蓋付碗	1820 年代	肥前 有田	1	当館所蔵	00746
141	文政年製	染付瓜文盃洗	文政年間（1818 ～ 1831）	肥前 有田	1	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	06349
142	本朝天保年製	染付日本地図大皿	天保年間（1831 ～ 1845）	肥前 有田	1	当館所蔵	00299
143	明治年製	染付獅子牡丹文大皿	1860 ～ 1870 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 柴澤コレクション	14560
144	有 3（統制番号）	染付根引松文小皿	昭和 16 ～ 20 年（1941 ～ 1945）	肥前 有田	1	当館所蔵 鍋島シツ氏 寄贈	02254
145	有 11（統制番号）	染付蔓草文碗	昭和 16 ～ 20 年（1941 ～ 1945）	肥前 有田	2	当館所蔵 西健一郎氏 寄贈	05455
146	肥 5（統制番号）	釉下彩色絵南天文蓋付碗	昭和 16 ～ 20 年（1941 ～ 1945）	肥前	2	当館所蔵 西健一郎氏 寄贈	06497
147	清	染付唐花唐草文大皿	1820 ～ 1860 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 髙取家コレクション	14793
148	乾	色絵牡丹文皿	1820 ～ 1860 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 髙取家コレクション	14791
149	不明字（型紙）	染付梅鶯流水草文皿	1690 ～ 1710 年代	肥前 有田	1	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	01026
150	福ヵ（型紙）	染付松山水文角手塩皿	1690 ～ 1720 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	01410
151	福（ゴム印）	染付龍文角皿	1930 ～ 1940 年代	肥前 有田	2	当館所蔵 水島太藏氏 寄贈	04920
152	今泉陶園（ゴム印）	色絵椿文蓋付碗	昭和前期	肥前 有田	1	当館所蔵 百溪正明氏 寄贈	06619
153	印「山國」	鉄絵山水文皿	18 世紀前半	肥前	1	当館所蔵	00550
154	印「丸に福ヵ」	白磁葉文葉形手塩皿	1640 ～ 1650 年代	肥前	2	当館所蔵 百溪正明氏 寄贈	15508
155	銘無し、見込みに刻印	窯の辻窯跡出土陶片		肥前 有田 窯の辻窯	1	当館所蔵	—
156	印「楽」	軟質施釉陶双鶴文足付皿	18 世紀	京都 京焼 楽窯	2	当館所蔵 白雨コレクション	06246
157	印「清水」	呉須絵山水文瓶	17 世紀後半	肥前	1	当館所蔵	02239
158	筒江	青磁染付熨斗文蓋付碗	1740 ～ 1770 年代	肥前 筒江窯	2	当館所蔵 柴田夫妻コレクション	03250
159	角松	染付唐草文輪花鉢	1720 ～ 1740 年代	肥前	2	当館所蔵 ※ 083 と同じ	00601
160	亀山製	染付唐花祥瑞丸文鉢	1820 ～ 1860 年代	肥前 亀山窯	1	当館所蔵 髙取家コレクション	07153
161	崎陽住亀山製	染付梅樹文長皿	1800 ～ 1860 年代	肥前 亀山窯	1	当館所蔵 溝口孝氏 寄贈	14010
162	天艸	染付吉祥文小碗	19 世紀前半	肥後 天草 高浜窯	2	当館所蔵	02002
163	朝	白磁型紙白絵梅樹文鉢	18 世紀前半	筑後 朝妻窯	1	当館所蔵	02238
164	スエ	染付菊形香炉	18 世紀後半	筑前 須恵窯	1	当館所蔵	00121
165	大和明暦年造＋酒柿	染付水葵文輪花大鉢	1810 ～ 1860 年代	肥前 有田 南川原山	1	当館所蔵 工藤吉郎氏 寄贈	12216
166	蔵春亭三保造	染付鳳凰花文八角小皿	1840 ～ 1860 年代	肥前 有田 久富	2	当館所蔵 髙取家コレクション	06949
167	蔵春亭三保造（オランダ写し）	染付草花文碗皿	1880 ～ 1910 年代	オランダ マーストリヒト ペトゥウス レグゥー窯	2	当館所蔵 山口裕也氏 寄贈	14630
168	肥碟山信甫造	色絵柘榴文碗皿	1850 ～ 1870 年代	肥前 有田 田代	2	当館所蔵 山口智也氏 寄贈	14021
169	満宝山枝栄造＋肥碟山信甫造	色絵人物富士山樹鳥文蓋付碗皿	1870 ～ 1880 年代	佐賀県 有田 田代	1	当館所蔵 山口裕也氏 寄贈	14629
170	年木庵喜三造	染付山水人物文鉢	19 世紀中葉頃	佐賀県 有田 深海	2	当館所蔵	00818
171	肥碟山深川製	色絵窓絵亀甲文小皿	明治	佐賀県 有田 深川栄左衛門	1	当館所蔵 福田ちづ子氏 寄贈	12788
172	蘭マーク	色絵菊文碗	明治	佐賀県 有田 香蘭社	2	当館所蔵 髙取家コレクション	14821
173	富士流水マーク＋深川製	染付唐人喫茶文皿	明治	佐賀県 有田 深川製磁	2	当館所蔵 髙取家コレクション	07070
174	柿右衛門作	色絵花文蓋付碗	大正～昭和	佐賀県 有田 柿右衛門窯	1	当館所蔵 嘉村保彦・雅江氏 寄贈	07847
175	今右衛門	色絵桃文皿	昭和前期	佐賀県 有田 今右衛門窯 11 代今泉今右衛門	2	当館所蔵 礒野高子氏 寄贈	12677
176	年木庵佩山作	釉彩象嵌草花文大皿（ダリア文）	昭和 23 年（1948）	初代松本佩山	1	当館所蔵 矢野量彦氏 寄贈	00264
177	有田焼	染付松鶴文輪花大皿	昭和前期	佐賀県 有田	1	当館所蔵 柴田祐子氏 寄贈	08388

参考文献

大橋康二 1988a「17 世紀後半における肥前磁器の銘款について」『東洋陶磁』第 17 号 pp. 25 ～ 37 東洋陶磁学会

大橋康二 1988b「18 世紀における肥前磁器の銘款について」『青山考古』第 6 号 pp. 67 ～ 74 青山考古学会

大橋康二 1990「柿右衛門古窯と 17 世紀後半の銘款」『古伊万里シリーズⅠ盛期伊万里の美』pp. 94 ～ 99 古伊万里刊行会

大橋康二 2001「肥前・有田磁器にみる紀年銘について」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 89 集下巻 pp. 685 ～ 714 国立歴史民俗博物館

大橋康二 2014「コーツ・コレクション」『John Coates COLLECTION』pp.341 ～ 343 Rebekah Clements , John Coates

大橋康二 2016「柿右衛門様式後の柿右衛門窯系色絵磁器の推定試案」『亀井明徳氏追悼・貿易陶磁研究等論文集』pp. 86 ～ 96 亀井明徳さん追悼文集刊行会

佐賀県立九州陶磁文化館 2006『近現代肥前陶磁銘款集』

耿寶昌 1984『明清瓷器鑒定 清代部分』學苑文化事業出版

朱裕平 2018『中国古瓷銘文』上海科学技術出版社

冨永樹之 1998「出土品に見る景徳鎮青花の底裏銘」『青山考古』第 15 号 pp. 35 ～ 65 青山考古学会

仲野泰裕 2023「瀬戸焼染付磁器 研究の現状と課題」『瀬戸市近世窯業文書集 第二集』瀬戸市文化振興財団

萩谷茂行 2013「統制経済下における陶磁器製品製造。流通の一考察～いわゆる「統制番号」に関する検証～」『瑞浪市歴史資料集』第２集 pp. 75 ～ 156 瑞浪市陶磁資料館

宮木貴史　2021 ～ 2023「柴田夫妻コレクションにみる銘款集成１～３」『佐賀県立九州陶磁文化館　研究紀要』第６～８号　佐賀県立九州陶磁文化館

企画展　なんて書いてあると？ —お皿の裏話—

発行　©佐賀県立九州陶磁文化館Kyushu Ceramic Museum
〒844-8585 佐賀県西松浦郡有田町戸杓乙3100-1
TEL 0955-43-3681　FAX 0955-43-3324
令和５年(2023年）９月30日

印刷　誠文堂印刷株式会社

佐賀県立九州陶磁文化館
KYUSHU CERAMIC MUSEUM